



日本の犬事情① ARK編



てらくまほ

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わると共に、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com

数年ぶりに日本に里帰りしてました。このチャンスを利用してぜひ日本の犬事情、また動物愛護事情をしっかりと勉強してこようといういろいろ計画。日本到着早々、三浦半島の逗子駅前（ホームレス犬たちのための街頭募金と活動内容の宣伝をしていたKDP(神奈川県ドッグプロテクション)のボランティアさんたちと出会いました。募金後少しお話を伺い、私のアメリカでの活動も伝え名刺の交換をしました。滞在初っ端にこんな素晴らしい活動をされているボランティアさんたちと出会い、「よしよし。日本の動物愛護事情も随分の発展をみせているのかもしれない」と期待に胸が膨らみました。

ARK (アニマル・レフュージ関西) www.arkbark.net

今回最初に連絡を入れたのがARKです。数年前にネットでこの団体のことを知り、故郷の大阪に所在するということもあって大変興味を持っていたので、ぜひ訪問してみたいと思っていました。アメリカから訪問希望の連絡を入れると創設者のエリザベス・オリバーさんから直々にお返事をいただき、ぜひ泊まり込みでボランティアしてくださいとのこと。現地一泊でボランティアさせてもらうことになりました。ARKは大阪が京都と兵庫に接

する最北部の能勢町にあり、大阪とは思えないような大自然の森林に囲まれた山の中にあります。大阪・梅田から阪急と能勢電鉄利用で終点の妙見口駅に出て、そこから一時間に一本もないバスに乗り換え、10分強走ったところから、今度は田舎道を上りて30分弱歩きます。迷ったかな?と思つた時に犬たちの鳴き声が聞こえ始めたのでひと安心。山道を歩いていての岡本さんが丁寧に施設内を案内してくださりました。迷路のように犬舎がたくさん建ち並び中にオフィスやオリバーさんのお宅もあり、またお庭にはきれいな草花がいっぱい。入り口ゲート近くには小川も流れ、環境は抜群。施設ツアーの後には、ARK製作のボランティアガイドのビデオを見てから、宿舎に案内していただきました。宿舎は電車の駅のそばにある一軒家。泊まり込みのボランティアのために用意されている生活用品完備の宿舎です。次の朝またバスに乗り、山道を歩きARKに到着。さあ、実地のボランティア体験の始まりです。現在は約200匹の犬と猫150匹ほどが生活中。スタッフ松尾さんの指導のもと早速犬たちの散歩を始めました。最初に感じたのが朝イチなのに犬舎が

きれいなこと。アメリカのシエラタールの朝はうんちまみれです。これもARKで大半を占める日本犬の特徴だからかも納得。私がお散歩をした犬たちは比較的高齢でした。でもみんなとても元気。「ARKの犬たちは長寿なんですよ」と松尾さん談。スタッフのみなさんにいろいろお話をとっていたのですが、みなさん一日大忙しで走り回っている。なので私も黙々とお散歩に従事。ハブアゴー、いろは、かえで、シヨーン(東日本震災被災犬)など10匹ほどの犬たちの散歩をしました。散歩道が大変思われていて、森林浴気分が歩けます。季節もよく山道には栗が

いっぱい落ちていました。ARKの動物はすべて去勢・避妊され、最終目的は新しい「永遠のおうち」を見つけること。私が訪問した前日にも結構高齢の雑種犬が数匹新しい家族に引き取られたという嬉しいニュースも聞きました。スタッフは専属獣医師も含め総勢約30名からなり、みなさんの愛と情熱と使命感は、たつた一日共にしただけでもひしひしと伝わってきました。日本でもアメリカでも動物愛護活動は山あり谷あり。でも、ARK訪問でこれからの希望をしっかりと感じる事ができ、気分良く下山して家路に着いたのでした。

次回も引き続き「日本の犬事情」をご紹介します。どうぞお楽しみ。



東日本震災の被害に遭ったシヨーンも新しい家族を募集